

[災害統計]

平成29年における車両系建設機械等による死亡災害の発生状況

平成29年に発生した車両系建設機械及び高所作業車等に起因する労働災害による死亡者数は52名であり、前年の48名より4名増の件数となった。

機械の種類別・業種別の死亡者数は表1のとおりである。

機械の種類別では、「掘削用機械」に起因するものが22名(42.3%)と圧倒的に多く、次いで、「整地・運搬・積込み用機械」の13名(25.0%)、「解体用機械」と「高所作業車」がそれぞれ5名(9.6%)と続いた。また、業種別にみると、建設業の36名(土木工事業：23名、建築工事業：7名、その他の建設業：6名)が全体の約70%を占めている。

表2は、機械の種類別・事故の型別に分

類したものであるが、事故の型では、「はさまれ・巻き込まれ」が21名(40.4%)、次いで「墜落・転落」の14名(26.9%)、「激突され」が12名(23.1%)の順となっている。この上位3つの事故の型で全体の約90%を占めている。

このように、車両系建設機械等による災害の傾向としては、機械の種類別の発生件数の順位については例年と変わらず「掘削用機械」、「整地・運搬・積込み用機械」、「解体用機械」の順となっている。

それから、災害発生の概要をみると一人作業中に事故が発生し「現認者なし」という事象が見受けられる。

[情報提供：厚生労働省]

表1 車両系建設機械等による機械の種類別・業種別死亡災害発生状況(平成29年)

(単位：人)

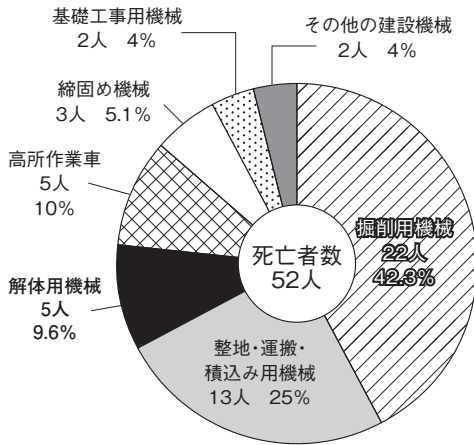
業種 機械の種類	製造業	鉱業 土砂 採取業	土木 工事業	建築 工事業	その他の 建設業	道路貨物 運送業 陸上貨物 取扱業	農業 畜産業 水産業 林業	商業 卸売業	その他の 事業	計
整地・運搬・ 積込み用機械	1	0	4	0	0	4	1	0	3	13
掘削用機械	0	2	15	2	1	0	1	0	1	22
基礎工事用機械	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
締固め機械	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3
解体用機械	1	0	0	2	2	0	0	0	0	5
高所作業車	1	0	1	1	2	0	0	0	0	5
その他の建設用機械	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
合計	3	2	23	7	6	5	2	0	4	52

表2 車両系建設機械等による機械の種類別・事故の型別死亡災害発生状況（平成29年）

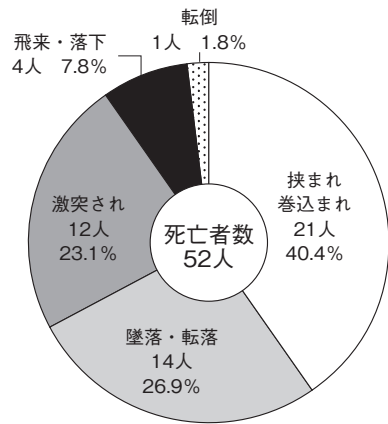
（単位：人）

機械の種類	事故の型 墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	挟まれ・巻込まれ	計
整地・運搬・積込み用機械	1	1	0	0	0	3	8	13
掘削用機械	6	0	0	1	0	7	8	22
基礎工事用機械	1	0	0	1	0	0	0	2
締固め機械	2	0	0	0	0	0	1	3
解体用機械	0	0	0	2	0	1	2	5
高所作業車	3	0	0	0	0	0	2	5
その他の建設機械	1	0	0	0	0	1	0	2
合計	14	1	0	4	0	12	21	52

車両系建設機械・高所作業車



グラフ1：機械の種類別



グラフ2：事故の型別